「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト　～いつでも、どこでも、誰でもが学べる場へ～

授業づくり講座　英語 in 香北中学校

授業をアップデート！
生きて働く学びを創る！

東部管内の講座情報

令和５年７月発行
東部教育事務所

香北中学校では国際バカロレア(IB)教育が行われています。単元では「重要概念」「探究テーマ」を生徒がそれぞれ追究していくように構成します。英語科では言語活動を繰り返しながら探究テーマや重要概念の理解に迫っていく中で、英語によるコミュニケーションにおける資質・能力の向上を目指します。「重要概念」は 16 あり、その内の言語習得によってもたらされる重要概念が「コミュニケーション」、「つながり」、「創造性」、「文化」とあり、本単元では「文化」を設定し、探究テーマと併せて深めていきます。

探究テーマ
文化の継承と発展には、目的とコミュニケーションに応じた共通性、多様性、相互接続性を見出すことが必要である。

領域別目標
話すこと【やり取り】イ
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。
書くこと　イ
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理するために、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

単元の目標
他者の意見等を踏まえた自分の考えをまとめるために、地域の文化等について事実や自分の考えを整理し伝えたり、伝えた内容に対する質問に応答したりすることができる。(話すこと【やり取り】イ)また、自分たちの住む地域のよさを高知県在住の外国人に伝えるために、自分の考えを整理しまとまりのある文章を書くことができる。(書くこと　イ)

1課
「文化とは何か」について自分の考えをもつために、友達や ALT と香北のよさや他の地域との違いについて、自分の考えを伝え合うことができる。
意見や自分の考えを整理してまとありのある文章を書くことができる。

2 課
「文化を継承し発展させるためにはどうすればよいか」について香北と京都の比較を通して自分の考えをもつために、香北のよさや特徴について伝えたうえで、その内容に対して対話を広げることができる。(修学旅行では外国人旅行者にインタビューする)

3 課
探究テーマについて自分の考えを深めるために、自分たちの住む地域の文化について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、伝えたり、伝えた内容に対して相手とのやり取りをしたりすることができる。また、今までの交流ややり取りを踏まえ自分の考えを整理し、まとまりのある文を書くことができる。

教材研究会　5月 12 日

協議より

＜視点＞　目指す姿に向かって、資質･能力を育成する単元計画になっているか。

- ･他者の意見等をふまえて自分の意見をもつために、文章を読んだり、外国人にインタビューする等の場が設定されている。
- ･他教科で自分の考えをしっかりもち、英語の時間に表現したり、英語の時間に身につけたことを他の場面で発揮するように計画されているので、より自分事として取り組めそうである。
- ･2 課ではインタビューをするが、生徒たちにインタビューをする目的をしっかり認識させておくことが大切である。

授業研究会　6月5日

本時のめあて
香北の発展について考えるために、香北（高知）のよさを伝えたり、京都のよさを聞いたりして、対話を広げたり深めたりする。

本時の展開

･本時のめあて、流れを確認する。
･ある生徒のパフォーマンスを見た後、「広げたり、深めたりする」工夫を共有し、見通しを立てる。
・ペアトークをする。
・今日のゴールを生徒自身が設定をする（ペアで共有）。

ALT とのやり取りをする。
＊京都のよさを聞き出し、香北の発展について考える手がかりとする。

言語活動での生徒の状況を見取り、気付いたことを ALT と共有し中間指導に生かす。

・ペアで ALT からフィードバックをもらう。
・全体で ALT から気づいた点を出して共有する。
・言語面について共有する。
＊ペア、全体でも ALT は英語のみ。

・ALT との
やり取り
・振り返り

協議より

＜視点＞　目的･場面･状況に応じて思考･判断･表現しているか。

- ･前回の振り返り→自己目標→1回目と2回目の違い(自己評価)＋他者評価で学んだことをすぐ使おうとしていた。教員は子どもから表現を引き出す指導をしていたし、すぐ表現を生徒に使わせて自分の表現にさせていた。
- ･中間評価を ALT がピックアップして板書、必要に応じて口頭練習を入れて、生徒も理解しやすかったのではないか。その後の会話でも使っていたので知識の定着にもつながったように感じた。
- ･マッピングを活用して、会話内容に応じて選んで話せていた。生徒自身が取捨選択しながら表現する姿があった。
- ･板書について、重要な内容がより分かりやすくするため、key word など目立たせてもよかったのではないか。
- ･2 回目は 5 分にし、回数を増やすなどすれば、より技能の向上につながったのではないか。
- ･They showed pride in talking about Kochi's good point's. Ask for something the tourist is interested in before telling them information about Kochi, so there will be more applicable.(ALTグループ協議より)

講話　文部科学省　教科調査官　入之内（いりのうち）　昌徳（まさのり）　氏

授業の振り返りより

◇本物に触れる機会を与える◇
ALT との会話に試行錯誤しながらコミュニケーションを行い、fluency が高まっている姿があった。Authentic な課題設定の工夫が大切です。また、本物に触れさせ、生徒にこんな力を付けたいという先生の明確な思いがあることも大切だと思いました。これがイベントで終わらないようにするには、他教科とも複合的に単元を構成することが大切です。

◇ALT と協働し、効果的な指導につなげる◇
ゴールを ALT と共有していること、そしてそれぞれの役割を明確にしていることが大切です。

◇学校行事と関連させる◇
自分が体験したり、経験したりしたことを伝えると、より生徒が自分事として伝えられるようになります。そのために学校行事や他教科、自分が学んできたことと関連付けることが必要です。

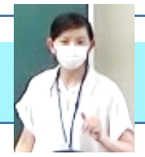
◇小学校からの学びをつなげる◇
小学校で学んだ表現を中学校でも効果的に活用すると、知識、技能、体験がより蓄積されます。小学校でどのような学びをしているか、目標、内容ともに把握して授業を行うことが大切です。

英語科の教員の皆さまへ！

生徒の英語力を高めることが私たちの最大のミッションです！

英語力と相関がみられた項目（中学校）から取り組むことが大切なことを示してくださいました。できているかチェックしてみましょう。

- ☑ 生徒の英語による言語活動 50%以上行っている。
  (言語活動を行う際は、具体的な課題設定をし、その目的を達成するために、必要な言語材料を生徒自身が取捨選択できるようにすることが必要です。)
- ☑ 英語担当教師が発話の 50%以上を英語で行っている。
- ☑ ALT の授業での参画状況が高い、授業以外で関わっている。
- ☑ パソコン等を用いて発表や話すことのやり取りをする場の設定をする。
- ☑ 「CAN-DO リスト」形式による学習活動を公表している。
- ☑ 指導者の英語力が CEFR B2 レベル以上である。



授業者　堀見　絵里沙 教諭より
自分が体験したことや、経験は生徒の「言いたい」「伝えたい」「書きたい」という思いに大きく影響すると改めて実感しました。単元のはじめは、外国人の観光客にインタビューすることに否定的な生徒もいましたが、言語活動を繰り返す中で、何をがんばればよいのか具体的になってきて、英語で何とかコミュニケーション取らなければと試行錯誤する姿が多く見られるようになりました。また、修学旅行から戻ってからは、京都での出来事やインタビューの内容を踏まえて自分の考えや感じたことをより積極的に伝え合ったり、書いたりすることができるようになっていました。発話量や書いた文の量が大幅に増え、書くことで言うと、約 15 分で 270 語程度書くことができる生徒もいました。